



# みんなの湿原小委員会 ニュースレター 特別号

発行日：令和7年4月1日

編集・発行：釧路湿原自然再生協議会 運営事務局

## 【農業事業者さん連携特別号！！】

みんなの湿原小委員会では、釧路湿原周辺で酪農業を中心とした農業事業者さんとの連携として、令和3年度からヒアリングを継続してきました。これまで小委員会の中で毎年ヒアリング結果を報告していましたが、今回の特別号では過去4年間で伺った農業事業者さんのご紹介とヒアリング内容を再度まとめてお伝えします。

### 農業事業者連携の目的

釧路湿原周辺の農業事業における、土砂流入抑制や、家畜糞尿から流出する栄養塩類の抑制等、負荷排出量低減の取組は、湿原の環境保全に直接つながっています。農業事業者さんの日々の取組を情報発信し、認知度が向上することで酪農業や釧路湿原への理解や関心が高まることを目的としています。

## 標茶西地区農地・水保全隊のみなさま（令和3年度）

### ● 標茶西地区農地・水保全隊について

標茶西地区農地・水保全隊は、排水路や農道の草刈りなどを実施し、遊休農地の発生防止に取り組みながら農地の土砂などが湿原に排出されないよう、沈砂池の適正な維持管理や水質の保全に取り組んでいる団体です。

平成15年に釧路湿原自然再生協議会が発足したのと同時期の平成14年に国営総合農地防災事業が発足し、完成後の土地の保全管理が必要となったことに合わせて、地域資源保全管理活動として平成20年に活動開始となりました。

主な活動内容は次の3つです。

#### ◆ 沈砂池の土砂上げ

沈砂池にたまった土砂の排出。サケの遡上と降下の時期を避け1月から2月とし、濁水処理をしながら行っている。

#### ◆ 草刈り

農地保全の一環で管理用道路と排水路で行っている。

#### ◆ 子供たちの生き物調査

学校と協議しながら継続している。



▲ 沈砂池の土砂上げ



▲ 子供たちの生き物調査

## JA阿寒青年部 浅野達彦さん（令和4年度）

### ● 浅野牧場・浅野達彦さんについて

JA阿寒青年部の代表者である浅野さんにお話を伺いました。浅野牧場は釧路市にある牧場で、数十頭の搾乳牛をつなぎ牛舎で飼育され、放牧もされています。

浅野さんは、酪農経営とともに、YouTuberとして酪農の知識や情報を発信し、講演会もされています。また、全国の子供たちに農業・酪農へ興味を持ってもらうため漫画「銀の匙」を寄贈する「全匙プロジェクト」も行っています。

・YouTubeチャンネル「浅野達彦【あさのたつひこ】酪農」

<https://www.youtube.com/channel/UC4SVe4NijUSr1uX2reG2kDQ>



▲ ヒアリングの様子

### ● ヒアリングの概要

#### ○ 概要

- ・実施日：令和4年11月17日
- ・参加者：浅野達彦さん（JA阿寒青年部）、小委員会事務局

#### ○ お伺いした内容

- ・釧路湿原は、観光資源と認識しており、実習で来た学生を展望台に連れて行ったりしている。
- ・JA阿寒としては、糞尿をたい肥センターに運搬し、たい肥化を行い、畑に還元している。
- ・たい肥センターにバイオガスプラントが併設されており、作られた電気・熱は隣接する大規模酪農家で使用されている。
- ・施肥が過剰にならないよう草地面積に合わせた飼育頭数で酪農を行っている。



▲ ヒアリングの様子

## 株式会社伊藤デリー 伊藤純一さん（令和5年度）

### ● （株）伊藤デリーについて

株式会社伊藤デリーは、鶴居村にある、乳牛約1000頭を飼育する大規模酪農場です。大正8年、新潟県より入植し、未開の原生林を開拓して農場の基礎を築きました。元々は家族経営の牧場でしたが、平成19年に法人化されました。敷地内には、糞尿を利用して電気を作るバイオガスプラントが設置されています。



▲ バイオガスプラント  
（左：処理後の糞尿をためるタンク、右：発電設備）

### ● ヒアリングの概要

#### ○ 概要

- ・実施日：令和5年10月4日
- ・参加者：伊藤純一さん（株）伊藤デリー、小委員会事務局

## 株式会社植田牧場 植田紘史さん（令和6年度）

### ● （株）植田牧場について

株式会社植田牧場は、鶴居村にある牧場で、乳牛約300頭を飼育されています。牧場とは別に合同会社トイビリカというTMRセンター（混合飼料を製造する牛の給食センター）を地域の農家7軒と経営し、農業の作業省力化・効率化に取り組んでいます。

代表の植田さんは、アメリカでの牧場実習の経験があり、その時に目にした、住民と農家が身近で、酪農が地域にしっかりと馴染んでいる光景が印象に残り、日本に帰ってきてからはそのイメージをもって経営しているとのことでした。

### ● ヒアリングの概要

#### ○ 概要

- ・実施日：令和7年1月24日
- ・参加者：植田紘史さん（株）植田牧場、小委員会事務局



▲ ヒアリングの様子

#### ○ お伺いした内容

- ・糞尿処理能力に応じた飼育頭数で運営している。
- ・バイオガスプラントにより自社で発生した糞尿・汚水はほぼ外に排出せず、自社内で処理できている。
- ・湿原から整備した牧草は、地盤沈下や洪水で浸水したり維持管理に苦労する。
- ・昔と比べて酪農家は減っており、農家と意見交換をしたうえで再湿地化をしていくにはいいタイミングだと思う。
- ・今と昔では考え方が変わっており、共存する時代となっている。農業事業者と釧路湿原も関係を上手く保ちたいと思っている。
- ・昔はタンチョウは蒔いたトウモロコシを食べてしまうため、良いイメージを持っていなかったが、今では鶴居村にとってなくてはならない存在になっている。



▲ ヒアリングの様子

#### ○ お伺いした内容

- ・牧場として釧路湿原に関わっているという強い意識はないが、研修生や学生が来た時には湿原へ連れて行ったり、家族や友達とも湿原に見に行ったりカヌーに乗ったりしている。
- ・3年前にロボット搾乳の牛舎を建てて規模を拡大した。1年前にTMRセンターを立ち上げ、増頭分の草地面積等を確保できるようになっただけでなく、鶴居村の育成牧場で処理しきれない分ももらっている。
- ・糞尿を畑に戻すという循環型農業を行い、全量が処理可能である。作付面積からも十分対応できており、環境負荷に配慮している。また、糞尿を固体と液体に分離する機械を導入しており、固体は敷料に使っている。
- ・小学校の子もたちがタンチョウの給餌用トウモロコシを植えるための畑を小学校に提供している。（環境保全活動）
- ・農家と地域の人々がもっと身近になれるよう、どんな形でもいいので地域に貢献していきたいと思っている。

### ■ 各農業事業者とのヒアリングを通じての事務局の所感

釧路湿原周辺の農業事業者さんの釧路湿原との関わり方には違いがありましたが、それぞれが環境配慮の取組をされており、湿原は地域にとって自慢の財産であるという意識が伝わってきました。また、バイオガスプラントやTMRセンターなどの環境配慮につながる取組に加え、小中学校との連携やYouTube、大規模化・効率化など、様々なアプローチで酪農業をより良くするために取組をされていたことがとても印象的でした。

今後も小委員会の取組として農業事業者さんとの連携をしていきます。次回の報告をお楽しみに！！

#### 資料の公開方法

各委員会で使用した資料および議事要旨は、釧路湿原自然再生協議会ホームページで公開しています。  
<https://www.hkd.mlit.go.jp/ks/tisui/qgmemd000003ppq.html>

#### ご意見募集

釧路湿原自然再生協議会運営事務局では皆様のご意見を募集しています。  
電話・FAXにて事務局までご連絡ください。

釧路湿原自然再生協議会 運営事務局

TEL0154-23-1353 FAX0154-24-6839

※みんなの湿原小委員会担当事務局：環境省釧路自然環境事務所

TEL0154-32-7500 FAX 0154-32-7575

